

TAKARAZUKA・ART HOUSE

設計趣旨

宝塚市内の起伏がある住宅地に建つ5人家族の住まい。敷地は十分な大きさがあるものの、隣家に囲まれ、かつ南西に建つ隣家が高いことから日照の確保に苦慮した。建主からは「自然の光や風を受け留めながら、ワクワクするようなアートを感じる暮らしがしたい。ピアノの音色もその一助になるような」といった要望が出された。内部空間は、近隣の木材を用いたリズムミカルな架構に、線や面をデザインした無垢材や木質材を組み合わせることで、変化に富んだ面白さを創出するよう心掛けた。外部は、軒の深い瓦屋根と低いプロポーションにより、街に潤いが生まれることを期待している。

地域産木材の使用

吉野の山へ入る建主のご家族 ▼

建主のご家族と一緒に奈良県吉野の山へ入り、実際使用する杉材の伐採シーンを見学後、山の成り立ちについて勉強をした。製材所では子供たちが杉の板材や床材に触れながら喜んでいる姿が印象的だった。自宅を計画するにあたり、家族全員が山や木の現実を学ぶことで、子供の教育を兼ねた家づくりを実践されたように思う。



◀ 道路から外観を見る（淡路産一文字瓦・吉野杉・漆喰壁の組合せ）



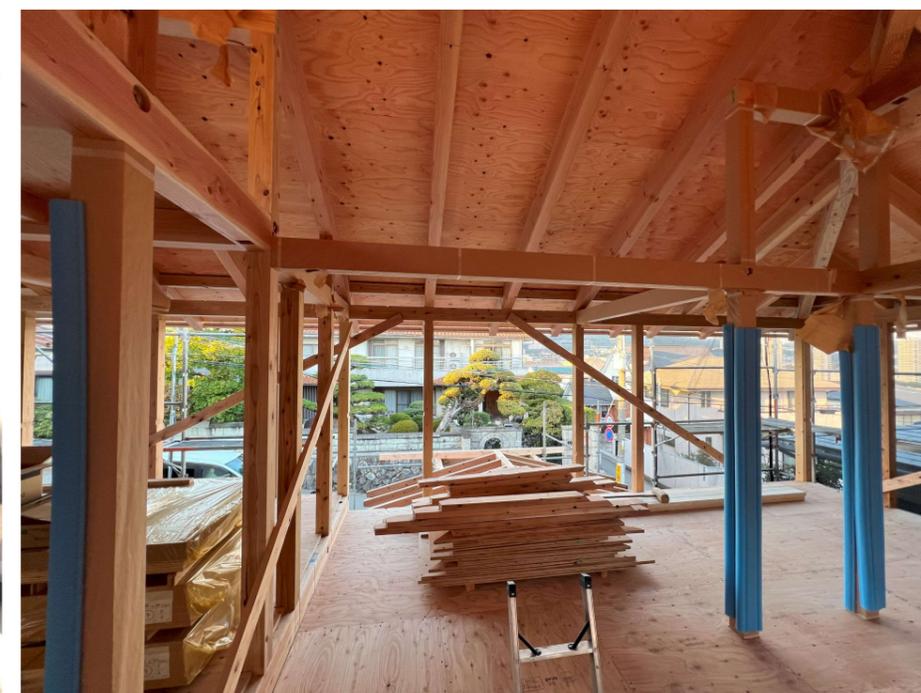
▲ 外壁と軒天は吉野杉の弁柄塗装



▲ 玄関アプローチ

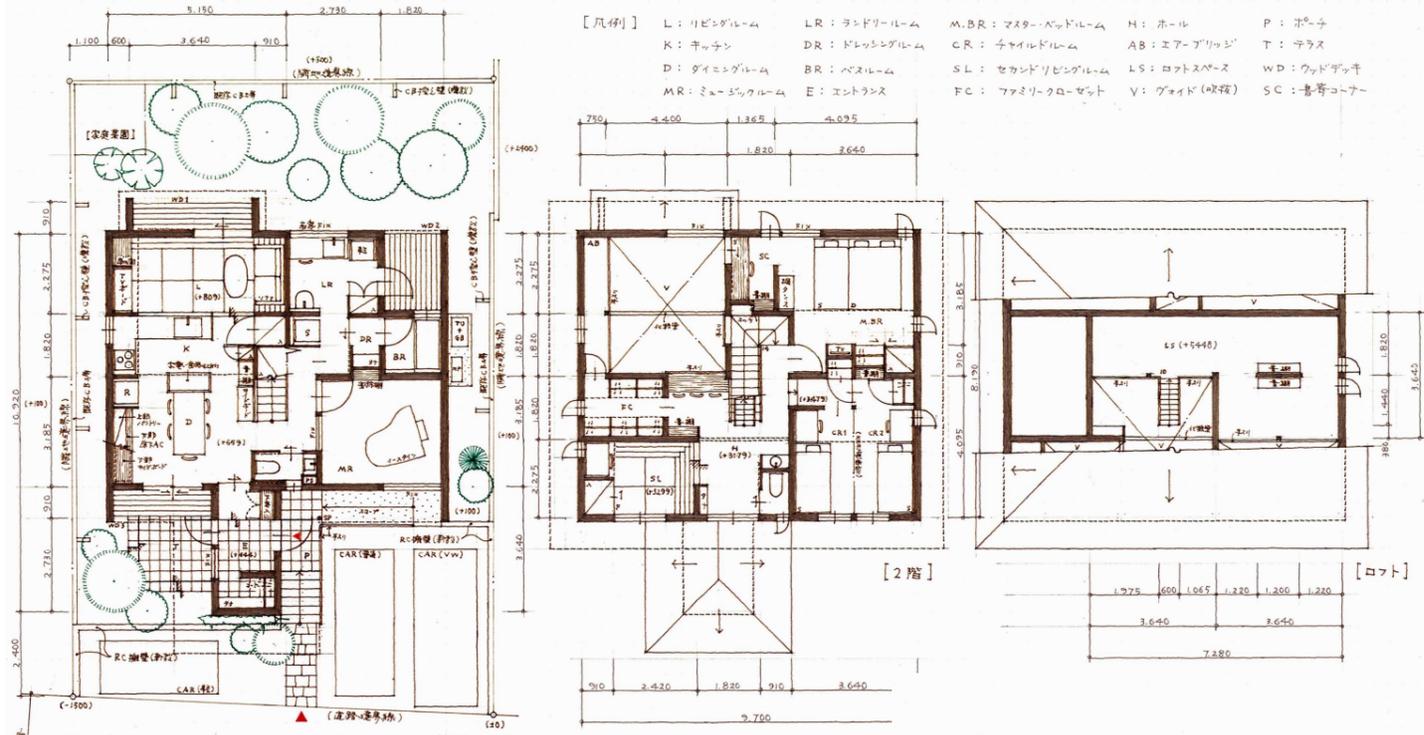


▲ 淡路産の鬼瓦



▲ 構造材に吉野産の杉・桧を多用した架構

TAKARAZUKA · ART HOUSE



配置兼各階平面図

※手描きの図面は全てプレゼン時のもので、完成とは多少異なります。なお、縮尺はフリーサイズです

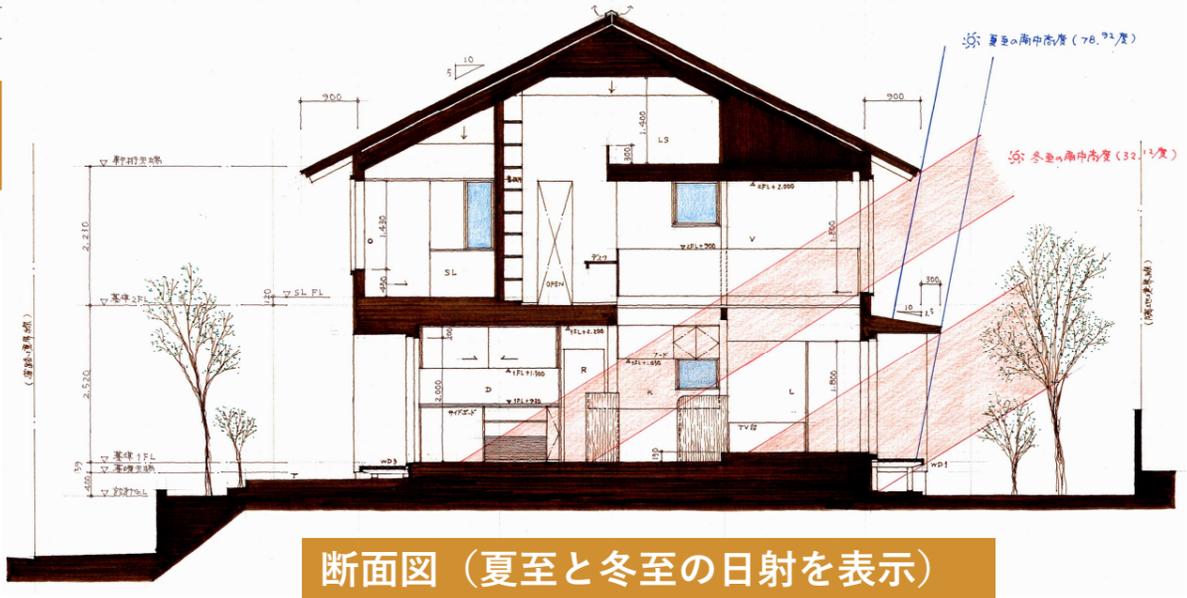
敷地面積：220.00㎡
 建築面積：90.08㎡
 延床面積：152.87㎡
 (1F:87.72+2F:65.15)



▲ダイニングルームから南の吹抜空間を見る

日射・通風・耐震・省エネ

冬の陽射しは南側に大きな吹抜を設けることで北側のダイニングルームまで光を届け、夏の陽射しは深い軒と庇により遮っている。(右の断面図参照)
 通風は入口と出口の2か所開口だけでなく、高低差により立体的な動きが生まれるよう計画した。
 一方で、耐震等級3(2階エアブリッジで床構面を確保等)省エネ等級6(基礎断熱t60、屋根断熱t200、外壁断熱t105)を確保し、長期にわたり安心して暮らせる住まいを実現している。



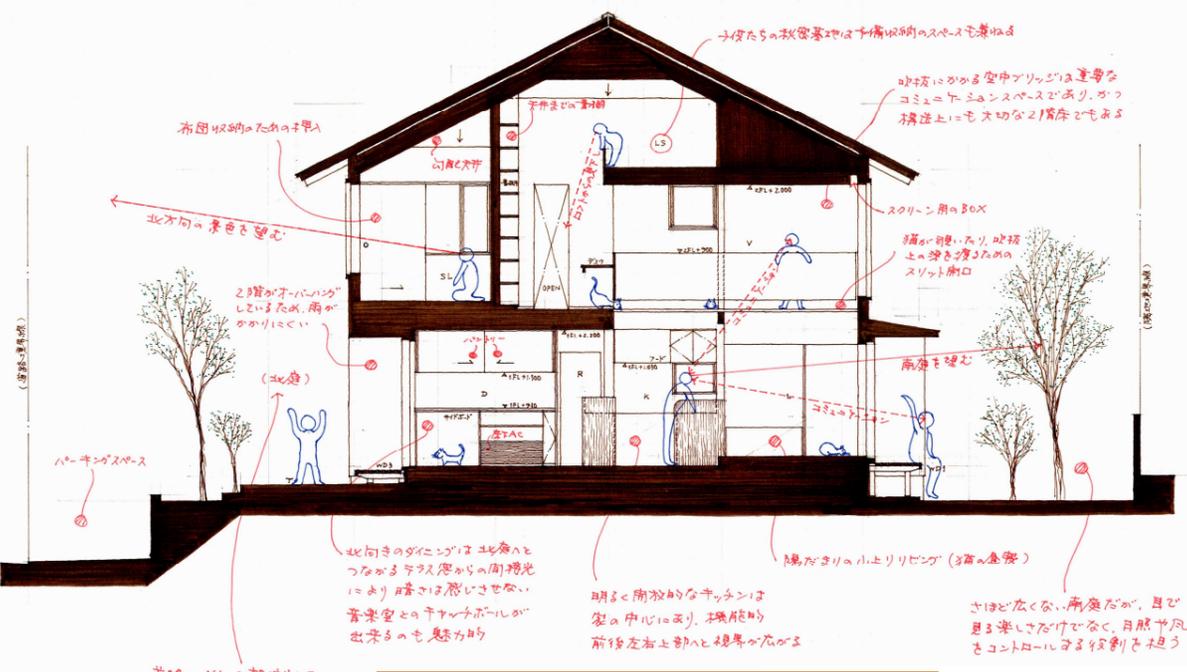
断面図 (夏至と冬至の日射を表示)



▲2階ベッドルームから吹抜空間を見下ろす



立面図



断面図 (プランの解説を表示)



▲2階セカンドリビングの木質材による内装